



プレゼンテーションで研究感性を磨こう！

自分の研究を口頭発表すること（研究プレゼンテーション）は研究者の基本的活動の一つです。みなさんの多くはすでに国内外の学会で自分の研究成果を発表されているでしょうし、そのような経験や経歴が自分のキャリアアップにもつながることは意識されていることと思います。しかし、研究プレゼンテーションの本質は、研究成果の一方方向性の情報発信ではなく、演者と聴衆の間の双方向性の情報交換です。聴衆から与えられる様々なフィードバック（質問、コメント、提案、など）によって演者は自分の研究を発展させることができます。ひいてはそれが研究コミュニティ全体の研究力強化にもなるでしょう。このような聴衆との対話を充実させるためには、演者は「自分の研究成果」を語るだけでなく「自分自身の特性」をも伝えなければなりません。本セミナーでは、この2つを同時に伝えるための方法を議論し、「Key QuestionとPerspective Frame」という二つの「プレゼンテーションの構成要素」を紹介します。この2つの要素を活用すれば演者は研究成果を効率的に伝えやすくなります。さらに、これらの要素に演者独自の工夫を凝らすことで、自分の研究感性を磨き、それを提示することができるのです。

広海 健

国立遺伝学研究所（遺伝研） 名誉教授

Yasushi HIROMI

professor emeritus, National Institute of Genetics (NIG)

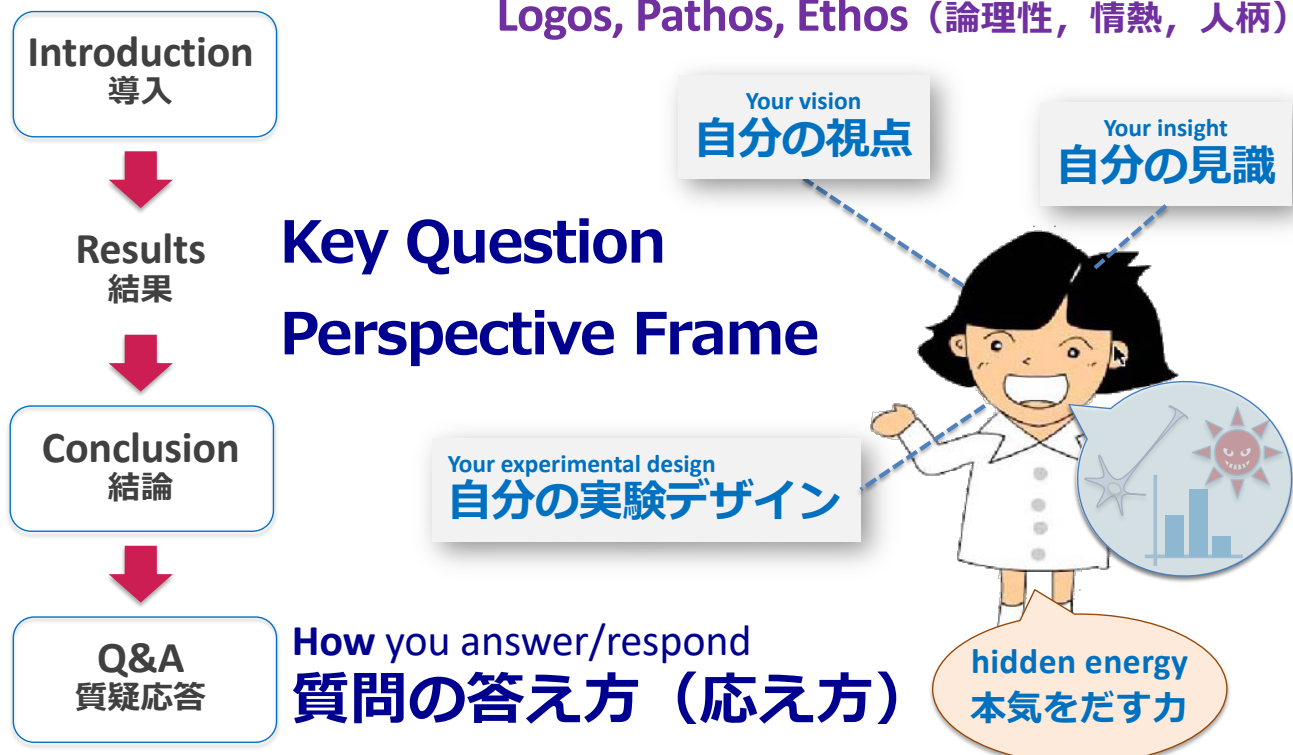
©広海 健 1

Presentation:

Transmit your personality through talking about your research

研究成果を話すことによって
演者自身についての情報を伝える

Logos, Pathos, Ethos（論理性、情熱、人柄）



Key Question

Question corresponding to Conclusion
結論に対応
するQuestion

Q



A

Your Message
今回の発表で **伝えたいこと**

||
Conclusion
結論

役割 :

Create **Anticipations of the Conclusion**
結論の**期待感**を作りあげる

Tool to follow the story
話について行くための**「道具」**

Show the **unique viewpoint** of the presenter
演者独自の切り口を見せる

作り方 :

Create **after** deducing the “Conclusion”
結論を出してから**「後付け」**

Tailor to the particular audience
特定の**プレゼン毎に設定**

Need not be a **grammatical** question
必ずしも**「疑問文」**でなくてよい

コツ tips

Demonstrate **your research aesthetics**

自分の研究感性を見せる

Coarseness is variable

粒度は可変

Must be placed in a **“context”** that audience can recognize as **“Key Question”**

聴衆が**「Key Questionだ！」**と**認識できるコンテキスト**

Present as **early** as possible

できるだけ早く提示すると楽

に置く

3

Perspective Frame

Framework and **Flow** to lead audience to Key Question

聴衆をKey Questionに導くための**枠組みと流れ**

役割 :

Elevate audience **Expectations**
聴衆の**期待感**を増大させる

Increase **Importance** of research
研究の**重要性**を認識してもらう

Provide **information about presenter**
演者**自身についての情報**を
提供する

作り方 :

Tailor to the particular audience
特定の**プレゼン毎に設定**

Think **wildly**, unbound by conventional wisdom

既存の考えにとらわれず**自由
奔放**に考える

コツ tips

Realize that there are **numerous varieties**

多様性は無数にある

Refrain from adopting **Lab structure-based Framework**

研究室構造に基づくのは**避ける**

Think **seriously**; you may be able to identify a new direction. It's also **fun!**

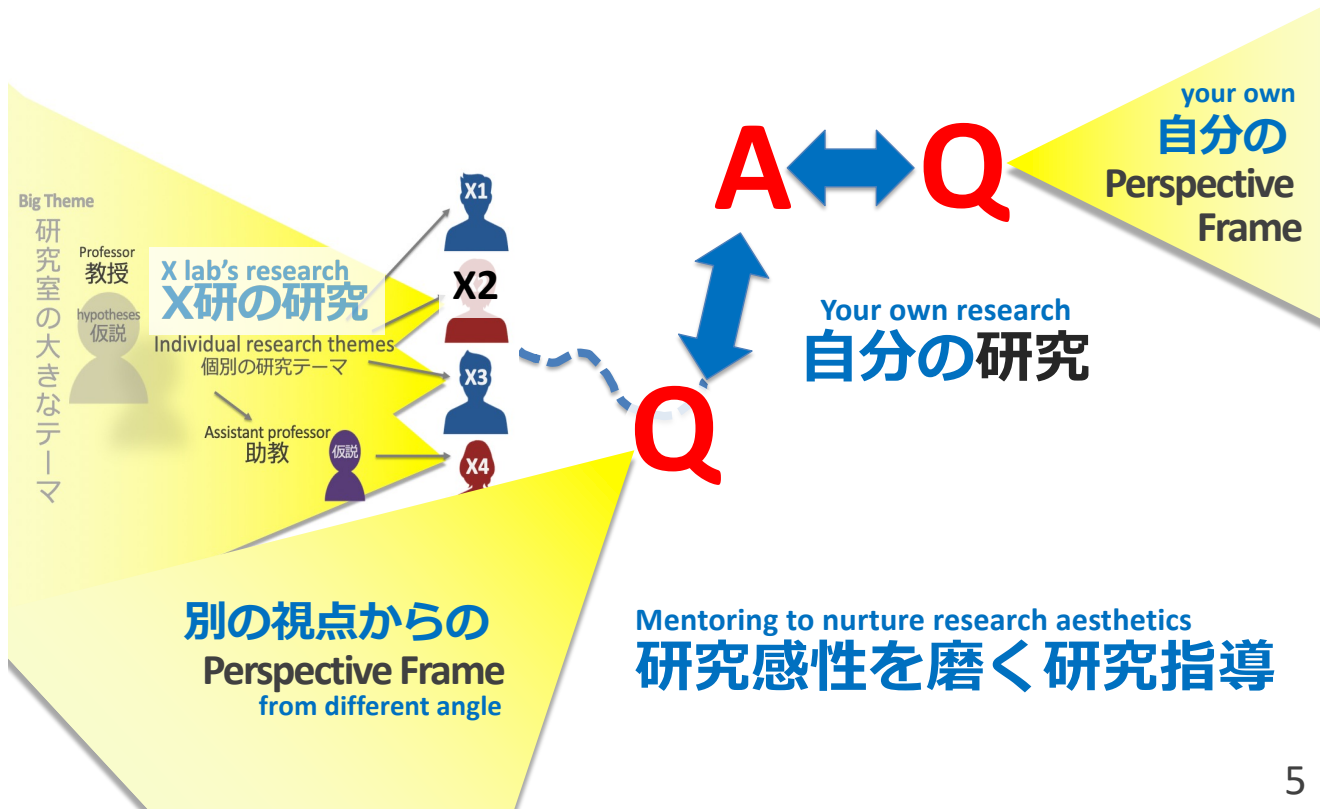
研究の方向付けにも役立つから、**真剣に**・

楽しみながら考える

4

Refrain from adopting Lab structure-based Framework

研究室構造に基づく Perspective Frameは避ける



5



①

Designing a Presentation

プレゼンテーションのデザイン法

Key Question

に惹きつける

Attract to Key Question

「結論」の
期待感を作る

Create Expectations
of Conclusion

期待感を
成就する

Fulfill Expectations

「先」の期待感
を作る

Create Expectations of Future

Perspective Frame

④

Q

Key Question

③

A

②

Message
(Conclusion)

Perspective Frame

⑥

Introduction
導入

Results
結果

Concluding
remarks
結語

Background

背

景

知

識

Information

6

おまけ Appendix Effective methods to facilitate comprehension of the “Results” section
「結果」セクションを理解しやすくするのに有効な術

Start with “meta-information” 「メタ情報」の先出し

これから話す情報についての情報
information on the information to follow

原理
mechanism

By preparing for interpretation
情報解釈の準備によって

1. 情報処理に要するエネルギーを減らす
reduce energy required for information processing
2. 期待感を作る
create expectations

● Conclusion First

Start with “Conclusion”
結論を先に言う

● Topic Sentence

Paragraph Writing technique is also useful in presentation!
パラグラフの書き方の技術はプレゼンでも使える!

● Signpost

“category” of the information that follows
次に続く情報の「カテゴリ」を示すことば

● Front Loading

Place “patterns of conclusion” in front
「結論のパターン」の先出し

recognize 3 types of topic sentence
スライドのトピックセンテンスの3つのタイプ

1. トピック (topic)
2. 結論 (conclusion)
3. 結論の性質 (meta-information of conclusion)

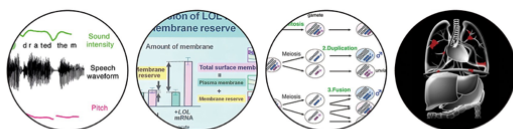
大事なのは、
Importantly

Please listen carefully
良く聴いてね!

7

NIG Method: an innovation in scientific presentation 遺伝研メソッド：研究発表の新機軸

遺伝研での授業スケジュール
<https://goo.gl/wjE2wW>



遺伝研メソッドで学ぶ [動画・音声付き]
科学英語プレゼンテーション

感じる力、考える力、討論する力を育てる

= 1つの「型」

守 型を「守る」

破 既存の型を「破る」

離 型から「離れ」て自在になる

「遺伝研メソッド」の貴機関への導入を支援いたします。授業のやりかたや出張講義に関心をお持ちの方は、広海または平田までお気軽にお問い合わせください。

Yash HIROMI
広海 健 (遺伝研名誉教授)
yhiromi@nig.ac.jp
<http://researchmap.jp/read0001404>

Tatsumi HIRATA
平田 たつみ (遺伝研・脳機能研究室 教授)
tathirat@nig.ac.jp
<http://researchmap.jp/tathirat>

遺伝研英語講師タジ・ゴルマンによる
「科学プレゼンテーション出張短期講習」
2~2.5日 (1単位分)

遺伝研メソッド出前研修



“NIG Method” is just one “form”. Don’t be bound by it; aim to “break” the form and be “free” from it! 8